

大連経済技術開発区とアカシア住宅

大喜多 富美郎

(この記事は、2009年9月に中小企業診断協会中国東北部ミッションに参加したレポートの一部です。)

1. 日本と強く結びついた大連経済技術開発区

大連経済技術開発区(以下大連開発区)は、大連市の市街地から大連湾をはさんで北方に位置する、1984年に政府に承認された中国の第一号の経済技術開発区である。約27km離れている大連市中心部とは、高速道路や快速電車(LRT)で結ばれており、交通の便は非常に良い。地理上の位置は東経121度、北緯39度にあり、仙台市とほぼ同じ緯度にあり、冬季にはシベリア・モンゴルからの厳しい北風にさらされるため、気温は氷点下10度くらいまで低下する。一方で、夏場の最高気温は26~27度程度で快適である。大連開発区は全計画面積388平方km(名古屋市の1.2倍)、うち70平方km(世田谷区の約1.2倍)が開発済みであり、日本から約350社が進出している

(大連日本商工会登録数)。日系企業による直接雇用は約14万人、大連開発区人口の約25%にあたりといわれている。また、これは開発区だけではないが、2008年の大連市にある輸出企業ベスト50社のうち、なんと24社が日系企業であったなど、大連における日系企業の

存在は非常に大きなものである。これは、もちろん歴史的な中国の東北部と日本との結びつきや、日本語人材の多さなど中国の他の地域とは異なる対日感情などがベースになっているが、鄧小平副主席(当時)の解放改革政策や南方講話の直後の1992年に日中友好20周年記念事業として開始された、日中合弁の大連工業団地の存在を忘れることはできない。

このプロジェクトは、日本側は海外経済協力基金(現国際協力銀行)と民間企業のコンソーシアムが80パーセント出資し、中国側は開発区管理委員会が20%負担して、当時はまだ開発途上で日本でも知名度が決して高くはなかった大連開発区内に約220ヘクタールの工業団地を開発して、日本企業を中心に誘致をしたものである。

現在、この工業団地では日系企業63社を中心に約80社の企業が操業している。この工業団地という言葉はもちろん日本で作られた名詞であるが、この時



大連経済技術開発区全体図

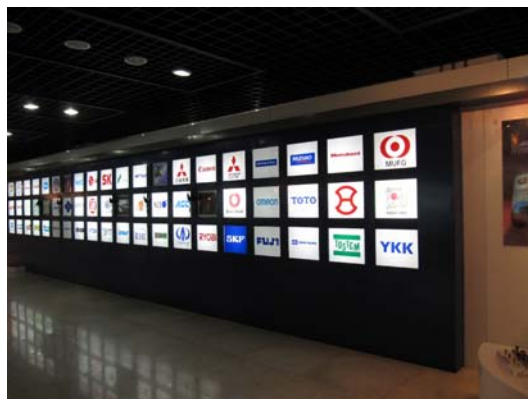


市内から大連開発区に向かう高速道路

Office Okita

以来大連開発区では、後述の金型工業団地などのように、区内のクラスターをつくるときに工業団地という名称を使っているようである。筆者は当時日本側出資企業を中心となった会社の担当者として、本プロジェクトの検討段階から開発、販売に深くかかわっていた。その頃の大連および大連開発区内の、日系企業はまだまだ 100 社に満たない状況で、今回大連に 3,711 社の日系企業があると聞かされ、まさに隔世の感がある。この日中合弁の工業団地開発運営会社は、今年その使命を終え解散したとのことである。

新しくて素晴らしくきれいな開発区の展示センター内で、管理委員会の担当者の方から開発区全体と、最近開発している金型工業団地の説明を伺った。また、金型工業団地の顧問に就任されている杉浦さんには詳しい現場の説明と、この後工場 2 社をご案内いただいた。金型はずいぶん長い間日本の中小企業の得意とするところであり、海外に進出した日系企業も金型の調達に日本からという時代が長く続いたが、やはり時の流れには逆らい難く、大連でも多くの日系企業に交じって中国の金型工場もできており、かなり質の良い金型ができるようになっているようだ。



開発区展示センター内に表示されている
進出企業のロゴ 日本企業が目立っている

2. アカシア住宅（外国人向け分譲および賃貸住宅）

大連開発区の開発済み地域の東南部の一角に槐城別荘（アカシア住宅）という外国人向けの住宅地がある。約 37,000 平方メートルの敷地に、瀟洒な 250 戸の分譲・賃貸住宅が並んでいる。この住宅地は、日本の大和ハウスと丸紅、中国北方航空（現南方航空）の合弁会社が所有・運営している。株主構成からもわかるように、基本的には大連開発区で働く日本人向けに計画された事業であり、現在も入居者はほぼ全員日本人とのことである。住宅は約 30%が家族用のタイプで、例えば一戸建て延べ床面積 130 平方メートル前後で家賃は月当たり 32 から 33 万円程度である。単身者用のステューディオタイプ 42 平方メートル



一戸建て住宅



単身者用アパート式住宅

Office Okita

が 12 万円、1DK48 平方メートルのアパートは 17 万円で賃貸している。また、開発区への出張者用に短期の宿泊も受け入れており、1 泊 350 元（約 4,500 円）で大連のホテルのレートと比べても、かなりリーズナブルな感じがする。

住宅地の入り口を入ると、レストランやコンビニを備えた管理棟がある。管理棟の中にはアスレチック・ジムやサウナ、マッサージ室もあり、快適な住空間を作り出している。



管理棟



单身者用 42m2 内部

管理棟からさらに奥に向かって歩いて行くと、敷地の緑の中に住宅が見えてくる。非常にゆったりとした空間の中に日本的な機能や清潔感を感じさせる、落ち着いた住宅地で日本人が多く住んでいるのが良く理解できる。部屋の中も清掃が行き届いていて、住みやすそうであった。家族用に市内の日本人学校へのスクールバスや、ショッピングセンターなどを巡回するシャトルバスも用意されている。また、四季折々のイベント、お花見、リンゴ狩り、クリスマスパーティ、餅つきなども催されているとのことで、マネジメントの努力がうかがえる。数 10 年前の中国では、突然の政府幹部の出現などで出張者がホテルから追い出されるということがよくあったと聞いているが、まさに隔世の感である。



管理棟入り口で記念撮影